

令和3年度 環境で地方を元気にする 地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業 キックオフミーティング 発表資料

本事業における区分

今年度より“環境整備”に取り組む	
昨年度から引き続き“環境整備”に取り組む	
昨年度までの“環境整備”を経て、今年度より事業化に取り組む	
昨年度までの“環境整備”と“支援チーム派遣(事業化支援)”を受けて引き続き事業化に取り組む	☒

活動団体名：一般社団法人 スマート・テロワール協会

活動地域：長野県・北信地域

北信スマートテロワール

農業を核とした自立(自律)分散型農村による共(競)創ネットワーク

活動団体紹介

スマート・テロワールの定義

● テロワールとは

ただの自然ではない : 地元の人によって、使用される**土地**のこと

ただの農地ではない : 農業的な適性(土壌、気候、地形など)や農業技術の良し悪しの観点から考察される特定地域の**土地**のこと

ただの地元産ではない : そこで産出され・加工される農産物・食品・飲料が、その**土地(農地、農村、地域)**を表現する。**景観やライフスタイル、**味わい、消費モデル。

● 「スマート(賢明な・洗練された・活発)」な「テロワール」とは

日本全体で、人口30~40万人規模の**「農村地域経済圏」**を定め、「スマート」(賢明+洗練+活発)に「テロワール」を実現する**「美しく・個性的で・豊穡な地域自給圏」**を創造していくこと。



地域プラットフォームの現状

事業①：土（持続するインフラ）づくり

～住宅や地域交通を対象としたエネルギーの地産地消の実証事業

a. 地域木材を使ったウェルネス住宅の体験

既存住宅の環境負荷の低減の実証：築30年以上の既存住宅に断熱リフォーム（エコリノベ）を施し、外装に地域木材を使った改修版のウェルネス住宅モデルをつくる。健康に加え住宅の長寿命化も促す。石油エネルギー削減と森林の地域経済循環の向上、CO2の削減、管理の行き届かない森林面積の減少を目指す。

信州大学、フォレスト工房もくり（飯山）
勝山建設（中野市）

b. 小布施版ソーラーシェアリングでの実証地域の電気をつくる農業モデル

地域内必要電力量から必要面積を算出し、電力の生産規模を戦略的に設定。農業振興地域以外の農地でのソーラーシェアリング（アグリソーラー）、施設園芸（トマトなどの野菜やシャインマスカット等のブドウ）を中心として次世代の農業を模索する。つくった電気を地域内で消費（住戸、交通、通信）するモデルを構築し、地域インフラとして地域内で消費できるエネルギービジョンを示す。石油エネルギー削減とエネルギーの地域経済循環の向上、CO2の削減を目指す。

おぶせファーマーズ、おぶせ電力、HOUSE
HOKUSAI、スマートテロワール協会

c. エネルギーの地産地消：地域の電気を地域交通で使う仕組みの検討

石油エネルギー削減とエネルギーの地域経済循環の向上、CO2の削減を目指す。また圃場（果樹・牧場）周辺の剪定枝の熱利用も検討する。特に循環型の電力消費の手段のひとつとして、電気カー、電気バスによる地域交通の実験を行い、ニーズ把握を行う。また、剪定枝の熱利用の可能性（複数の住宅、地域暖房）を検討する（事業1にも関連）。

スマートテロワール、おぶせ電力、
HOUSE HOKUSAI、小布施牧場

スマート
テロワール
協会

北信スマートテロワール

農業を核とした自立（自律）分散型
農村による共（競）創ネットワーク

小布施まち
イノベーション
HUB

事業②循環するものづくり

～食と農の再構築と加工拠点の連繫事業

a. 耕作放棄地をつかった酒米づくり

小布施町にある1.8haの遊休農地の内、今後増えていく可能性がある町の北部に広がる水田を置換し、加工向けの農産物を生産する。まず第一歩としては酒米づくりに挑戦し、有力な加工業者（酒造）と連携し、生産から販路（販売）まで一体的に考える。

松葉屋本店、おぶせファーマーズ

c. さまざまな「土」の検証によるエディブルガーデン（食べられる庭）づくり

現在使われている肥料や農薬、除草剤などの残留度を調べ、自分達の土づくりにとって必要なことを知る機会をつくる。エディブルガーデン（食べられる庭）をつくり、畑を身近なものとして関わって知る仕組みをつくる。

トボス、須坂市農業試験場

b. 有休農地を牧場に、たい肥を活用する土づくり～和ウニ農場での実験

2016年から耕畜連携を推進している山形大学農学部鶴岡との連携を通して小布施牧場の休耕田への拡張により増加する堆肥を用いて輪作可能な畑作の推進、トウモロコシ、小麦等飼料の自家生産をおこなう、又、多様な果実栽培の地味（テローアール）づくりを進める。果実廃棄物に關しても土づくりや燃料としての利用を試験する。果実戦力品種の開発にも応用し、ワイン工場での応用も図る。

楠ワイナリー、小布施牧場、
スマートテロワール協会

d. 地域に根差した加工品を組み合わせた料理開発

信州の加工食材をさらに掛け合わせるレストランのチャレンジ。多様な消費を生み出すことにより、消費のパターンを無限に生み出すレシピの検討と、モデルケースとなるような軽トラックを改装した「Deli Cafe」トラック制作する。単なるマルシェではなく、長野県の食を楽しむという表面の目的のほかに、生産者や食を通して色々な業種の方々が出会い、生産性を自主的に作り、回し、地域へ還元していくことを目的とする。

AmberLab、伊那食品工業、サンクセール、ス
martテロワール協会、6次産業センター

事業③人（全員参加の共同体）づくり

～災害復興からの地域のレジリエンス強化と農村景観をつくる「公」担い手となる中核人材育成事業

a. 平时に楽しみ有事に備える農業×防災テーマパーク“nouvo”

「nouvo」とは「農業」＋「防災」＝「農防」。イタリア語で「新しい」を意味するこの語に「21世紀型の新アミューズメント」との思いも込めました。平時を楽しみ有事に備える、日本初の施設を構想する。日本笑顔プロジェクトで災害後、支援活動を行う中で本場に現地で役立ったものをピックアップ。それらをnouvoに集約し、体験・習得できる施設として運営していく。小布施の基幹産業である「農業」をベースとし、安心・安全な食のあり方を考え実践する場、非常時の食糧補給の場としても活用していく。表向きは、幅広い年代に興味をもってもらいたいためアミューズメント化するが、その根底には防災力の向上や食育など「ライフ」というテーマを含み、nouvoの目的である「楽しむ」の延長に「防災力を高める」「すこやかに生きる知恵を身につける」ことを目指す。このパークの運営をするコアメンバーの構築と、現在の復興の核となる重機オペレーター（今年度100人→150人）を育成する。

日本笑顔プロジェクト

b. 森林の消費若育成～木遣いのできる人材育成

長野県の山林では、管理が行われていない森林が増え松枯れや間伐材の管理が深刻な問題となっている。この課題の解決のために「関わる人材の育成」、「関わりとなる産業の構築」が重要である。主に工学部建築学科の学生を対象に、森の維持管理や森の木を伐りだすプロセスを学び「木づかい」のできる人材育成プログラムを開発する。また生成された材を既存住宅に利用し、省エネルギーで暖かい地域材による住宅の環境性能評価と経済効果の計測、試算を行う（1.の事業とも関係）。

小布施まちイノベーションHUB、Amber lab、信州大学 フォレスト工房もくり

どんな“ローカルSDGs事業”を生み出したいか

ありたい地域の未来

農業を核とした自立（自律）分散型農村による共（競）創ネットワーク

ありたい地域の未来を達成するための“ローカルSDGs事業”は何か

● 地域内消費を前提とした小布施版ソーラーシェアリングの基本計画の策定

具体的な敷地を検討し、農業と防災と牧場を掛け合わせた小布施版ソーラーシェアリングの計画案を策定し、町との協議を開始する。建設費を算出し、事業性の検討や実施のためのファイナンスの方法を検討する。

無秩序な開発ではなく地域内必要電力量から試算して開発規模を抑制し、**地域の電力を地域内で賄う**ことを目的に考える（**エネルギーの地消地産、RE100自治体の目標**）。

● 防災拠点と人が集まる発電所を地域で共有する

災害時の非常電源を想定し、プロトタイプとなるソーラーシェアリングの建設を目指す。重機講習も兼ねて建設にも参加できる方法や、EVの乗り物や農機具を体験することで、「**自分たちで実践し、楽しみながらCO2を減らせる仕組み**」をみんなで考える。

RE100自治体を目指す小布施町

現在の創エネルギー割合

電力量
需要量(3200世帯)

公共施設: 〇KW(〇世帯)
個人宅: 〇KW(〇世帯)
小水力発電所: 190KW(300世帯)



- ・小布施はエネルギー賦存量が限られている（FS調査済み）
- ・メガソーラーは景観を壊す上、農業立町に反する。
- ・畑をつぶしてまで、ソーラーはやりたくない。
- 農業との共存を目指し、ソーラーシェアリングを検討

小布施版ソーラーシェアリングの事業構想（案）



年間スケジュール（参考資料）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事業全体の予定			◆キックオフミーティング ↔ 協定締結（活動予算執行開始）						◆中間報告会 ◆中間報告書提出期限		◆活動団体成果報告書提出	◆成果報告会
小布施版 ソーラー シェアリング			実施設計 資金計画・補助金申請			建築申請・手続き 近隣への説明・事業周知					建設着工	
小布施版 データブック					庄内スマート・テロワール ・ソーラシェアリング視察							
						プロジェクトマネージャー会議（事務局会議・隔週開催）						
						プロジェクトリーダー会議（月一開催）						
						基礎情報リサーチ（継続）			データ分析・評価			

